

## 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン令和6年度・令和7年度中間評価(委員会評価)(案)

## 中間評価(委員会評価)

## 基本目標1 誰もが文化芸術の鑑賞等ができる環境が充実している

(意見)

- ・「美術館建築展」で見られたような学芸員の能力を十分発揮した企画を実現できるよう、風通しのよい文化施設運営を行っていくべきだと考えます。(野田委員長)
- ・「クリエイターシティ・チガサキ」の形成に向けた取り組みが、毎年度スタートアップ的な事業に始終していて、進展が感じられないと思います。「事業の周知を図った」その効果検証はどうお考えでしょうか。ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟が再検討になっていますが、そこの兼ね合いも気になります。(森井委員)
- ・ユネスコ創造都市ネットワークへの参加については改めて検討するとしているので、茅ヶ崎市の個性を見つめ直し、背伸びをせず、ミーハー的な発想に囚われることなく、着実に進めることを求めます(岩本委員)

類似意見のため、委員意見として取りまとめ必要

- ・教育現場での活用など様々な課題等で文化芸術教育プログラムの事業が継続されなかったことは、教育にとって文化芸術の必要性を求められていない＝多角的な学びを得ることのできない教育現場であると考えます。今後、教育現場と連携して継続の可能性を探るべきだと考えます。(山口副委員長)
- ・現行の文化芸術教育プログラム事業が想定期間を経て事業終了となることは止むをえませんが、是非とも何らかの形で文化芸術を学校教育の中に組み入れている活動は継続していただきたいと願います。(森井委員)
- ・小学校・中学校向けの文化芸術教育プログラム事業については、手続きが簡便なプラットフォームづくりが必要であると考えます。(野田穂委員)
- ・情報発信を広げることで、市民への周知の裾野を広げてこられたように考えます。文化芸術教育プログラム事業の見直しの方向性とのことですが、実績及び効果、長期的展望をもつなど、慎重に検討していくことを求めます。(沼上委員)
- ・教育現場での活用など等見直しが必要のため事業終了とのこと、十分に理解できます。多くの課題があると思いますが、事業実施に前向きな検討の継続を求めます。(栗林委員)
- ・多様な文化芸術の体験・観賞の機会を見童・生徒に提供できたことは、素晴らしいと思います。学校教育の場と違って、社会教育の場で本物に接していくことは、非常に大事な体験・経験で、学校現場ではなかなかできない事だと考えます。多様な文化芸術の提供は、幅広い個性・趣味に対応できることも、学校教育の場では困難なことではないでしょうか。文化芸術教育プログラム事業は、令和7年度を持っての終了は、もったいないとも思います。(長本委員)
- ・それぞれの文化施設が活発に活動しており、同時に市民レベルでのイベントも数多く開催されてい

ることから、環境は自由で充実していると考えます。一方で、車椅子での入場口が分かりにくいなどの「誰もが」に対する課題は依然として残っているため、検討を求めます。(野田穂委員)

- ・大変多くの事業が既に実施されており、確実に広がっていると評価できます。(井上委員)

## 基本目標2 生涯にわたって学べる環境が充実している

(意見)

- ・生涯学習と文化活動の接続部分をうまく繋ぐ工夫をしていくべきだと考えます。(野田委員長)
- ・市民まなび講座や、まなびの市民講師など、学び合いの場が活用されている報告から、こうした市民にとって学びの機会の場があり、それを得られるということは大いに成果を上げていると考えます。一方で情報の発信について、工夫が必要だと考えます。市内の連携を強めたり、いろいろな年代の様々な方に届く方法が確立されたりすると、より一層の活用が見込めるのではないかと考えます。

(山口副委員長)

- ・茅ヶ崎市は住民の皆さんの生涯学習意欲が高い事にも関連しているのですが、文化生涯学習活動に更なる発展的な息吹を感じられ大きな期待を抱いています。今後、益々ニーズが高まる事が想定されるので、それぞれの背景に沿った多彩なメニューと参加への敷居を下げる展開を望みます。

(森井委員)

- ・ハマミーナまなびプラザの利用人数が経年増加していることは良い傾向と思います。文化生涯学習活動の形として、ハイブリットでの受講率が上がっていることも評価できます。(栗林委員)
- ・「誰もが」「いつでも」「どこでも」 学び得る環境づくり、で忘れがちなのがバリアフリー。「市民の愛」でどれほどの壁を崩すことができるのでしょうか。(岩本委員)
- ・まなびの市民講師の分野を増やすことで利用団体が多くなっているため、人権・国籍・ハンディー・ジェンダーフリー、様々な立場の人が集まって交流し、学び合う機会を提供すべきだと考えます。(沼上委員)
- ・ユネスコの生涯学習社会が唱えられてから、50年程経過して来ているのではないかと思います。現代の若者が、また社会全体が、スマホ文化に押し流されてきている中、この生涯にわたって学べる環境の充実は非常に大事ではないかと考えます。特に、10代前半までの子どもたちの文化・芸術の体験の場を設定してあげる環境づくりを模索していくことを求めます。(長本委員)
- ・指標「生涯を通じて学ぶことができる環境」の満足・まあ満足割合が、23.4%ということは約8割の人は整備されていると感じていないということです。アクセスの問題か、告知方法の問題か、内容か、この数値だけでは見えないです。様々なニーズに即した団体が既に存在するので、そこからニーズの把握し、できることから形にしていくべきだと考えます。(井上委員)

### 基本目標3 地域の歴史や資源が継承されている

(意見)

・限られた予算やスタッフのなかで、中長期にわたり継続できる文化資源の発掘、ブラッシュアップを推進していくことを求めます。そのためには関連のある他地域、海外との連携も視野に入れる必要があります。(野田委員長)

・クリエイターの育つ環境づくりのために、大いなる1歩を踏み出していると感じます。一方で、クリエイターの発想力の源や、創造力が生み出され、発揮される環境について今一度見直していただきたいです。文化芸術教育プログラム事業といった多様な学びの機会を提供することは、クリエイターの育つ環境づくりには欠かせません。よって教育の場には必要であると感じます。また、歴史的遺産である旧南湖院の活用について進めていくことを求めます。(山口副委員長)

・指標である市の魅力として「歴史や伝統がある」と答えた市民の割合が、14.3%ということは、約85%の市民が「地域の歴史や資源が継承されている」と評価していないと思われます。そもそも茅ヶ崎の歴史や伝統を知らない可能性が高く、自分事として捉えていないことの現れではないかと考えます。それは継承以前の問題です。エコミュージアム活動をもっと活性化させる、彼らの成果を広く伝えていく。あるいは、茅ヶ崎市と規模あるいは特徴の他の自治体の取り組み事例などから学ぶべきではないだろうかと考えます。(井上委員)

・市史編さん事業で、茅ヶ崎市の豊かな文化を「ヒストリアちがさき」として広報されていることは、市民にとって自分の住んでいる郷土に愛着と誇りを持つ材料を提供することになっているのではないだろうかと考えます。地域のコミュニティと最前線で接する公民館の文化活動も大事になってくると考えます。(長本委員)

・様々な活動を通して蓄積され、これからも蓄積されていく街の記憶である資料群の活用について、それぞれ異なる想いを持った市民ニーズに的確に応えられるシステム構築を、部署を横断する形で今後も推進していただくことを求めます。(森井委員)

・市史編さん事業では、職員の皆さんが尽力されていることが大変伝わります。博物館の調査研究から展示までの取り組みも大変評価できると考えます。一方で、若い人たちや子どもたちが分かりやすく楽しく、地域の歴史に親しめるような環境づくりには、検討の余地が残る施設や事業もあるように考えます。(野田穂委員)

・地域の歴史や資源が継承されていると言えるような実態はないです。高座郡衙跡と七堂伽藍、大庭御厨、懐島景能、大筒試射場、浜降祭、大岡越前…これらについてのまとまった文献がみられないです。特に、小中学生にわかりやすい資料がないです。(岩本委員)